

自己評価および外部評価結果結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を掲げている。また、法人理念に基づいた事業計画を作成している、事業所内の理念については、現在作成中である。	法人の理念、利用者個々に合った生活支援と地域との連携を図ることを目標に事業計画を策定されている。更に施設独自の理念をもち利用者の生き甲斐向上に繋げようと現在模索中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板で知りえた地域の行事等に参加している。地域の行事に参加しやすいように計画を立てている。その都度、職員の勤務を調整している。	地域の福祉祭・文化祭・神社祭・地域の防災訓練などに参加したり、施設の広報紙を回覧し、施設の姿を理解してもらっている。施設の行事にもできるだけ多くの方に参加してもらえよう心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町からの委託事業である「健康講座」にて認知症の理解や予防方法、支援方法等を、自事業所、公民館等で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの取り組みを報告している。そこで頂いたご意見を、職員会議等で問題定義し、サービスの改善、向上に取り組んで知る。また、地域の皆様、行政との日程が合わず、運営推進会議の回数が少ない為、今後は日程の調整を綿密にし、もっと取り組んで行きたい。	行政関係者・福祉委員・区長・家族・利用者・第三者委員を推進員とし、施設の取組状況を報告し積極的な意見指導を頂いている。受けた意見は職員会議で検討し利用者の日常生活向上に繋げている。今後地域の人々と交流を深めるため連絡網を設定する予定である	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	併設施設の職員と協力して共に行っている。今後、可能であればグループホーム職員が、町のケアマネ連絡会に参加していく予定。	定期的に行政関係者に広報紙を配布したり、施設の現状を報告し、意見や指導を頂き協力を得ている。今後、町のケアマネージャー連絡会にも参加させて頂き、統一した支援を推進しようと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、玄関の施錠等は家族の理解を頂き止むを得ない場合のみ施錠させて頂いている。(グループホーム内職員一人待機の場合など)他、身体拘束の事実はない。	利用者の居室を個人が施錠する以外は全て開放している。ただ止むを得ない場合は家族の理解を得て施錠することもある。また利用者の人権を尊重し、如何なる場合も身体拘束はしない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人エリア内や職員会議にて虐待についての勉強会や確認を行っている。職員は、正しく理解できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用する利用者様がない。今後、日常生活自立支援事業、成年後見制度について学ぶ必要あり。勉強会を実施していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に重要事項説明書、契約書を通り説明して、ご家族より同意を得ている。契約の際は契約書の内容に基づき、利用者様、ご家族と話し合い、一緒に考える様になっている。また、現在、より、ご家族に納得して頂くため、エリアの部門別リーダー会議にて、契約書、重要事項説明書の確認を行い、「説明が難しい部分はないか。」などを確認し勉強会を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に関しては、ご意見、不満、苦情を「つぶやき」という形で聞き取りを行っている。また、介護相談員の方々が来て下されば、利用者様との会話の中でご希望等を聞いて頂くようにしている。ご家族に関しては、苦情受付から解決までの手順、受付担当者の連絡が記載してある用紙が玄関に掲示してある。第三者委員を設置している。	利用者の意見苦情は「つぶやき」という形で記録し、検討会議に図っている。また介護相談員により利用者の意見を聞きだしている。利用者と家族が施設で泊まれる「宿泊会」等を利用して家族の意見を聴取している。	定期的に第三者の立場にある方により苦情や意見を聴取するシステムづくりを望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を行い、意見や提案を出し合っている。また、管理者と職員が個別にミーティングを行っている。	定期的に職員会議を開催し、管理者や職員が自由に意見を出し合い、支援向上に努めている。時には意見発表会などにも参加し、個々の先見的な発想を提案してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートや実績評価等を基に個別の面接を行っている。それぞれ目標をもって仕事に取り組んでいると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設を含め勉強会が年間に計画されている。今後は、「職員がどんなスキルを身に付けたいか」を考慮し、自主的に研修が受けられる様に体勢を整えていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、勤務の調整がつかず、他施設との交流が行えていない。「諏訪圏域グループホーム交流」が存在する為、勤務が合えば前向きに検討していきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に面接を行い、ご本人の困っていることとお聞きしている。それを、フェイスシートに記載し、暫定プランに反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接の際にどのような生活をされて来たのかなどをお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、申し込み時に利用者様のお話を聞き、必要に応じて、併設施設の老健、特養の企画開発スタッフを紹介し、見学へすぐにいけるように手配している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、お掃除を一緒に行っている。職員が分からない部分を利用者様にお伺いしている。食事を一緒に食べている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のご様子を常に報告している。ケアプランを作成にも協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力を仰ぎながら、馴染みの方に暑中お見舞いや、年賀状をお出ししている。また、お盆やお正月には、帰省を呼びかけている。	家族の協力も仰ぎながら、親戚や友人に手紙を出している。帰省し家族と親しく団欒を得ると共に家族には利用者の状態を理解してもらっている。定期的に馴染みの深い理容院へ通う利用者もいる。またドライブ時には思い出深い懐かしい近隣に接するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が係わり合いが持てるようにスペースを作っている。(食堂ベンチ、ソファスペース) お話が好きな利用者様が話を盛り上げて下さる。食堂のお席に関しては、お話が合う利用者様同士でが隣になるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状等やり取りをしている場合がある。退居後に電話等で連絡を取り合い、退去後の相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「利用者様プロフィール表」やアセスメント用紙を用いて、ご本人の意向や希望の把握を行っている。また、「利用者様のつぶやき」からの聞き取りも行っている。	利用者のプロフィール表を基に、生活の中で捉えた利用者の意見や希望、言動を、「つぶやき」と称する記録簿に具に記録し、検討会議に回り、張合いの持てる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に得た情報を「フェースシート」にまとめている。また、ご家族に聞き取りを行い、「利用者様プロフィール表」を作成し、生活状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に一日の様子を記入して、全職員、現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、家族に相談しながらケアの方針を立てている。また、「交流会」を開催して、ご家族に参加した頂いた。普段の様子を知って頂き、介護計画の作成に協力して頂いた。	新年会や交流会には関係者や家族にも同席してもらい、利用者と過ごすことにより施設での生活状況を理解してもらい、様々な意見を提案頂き介護計画立案に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書をカルテに挟み、職員同士で情報を共有している。利用者様の日々の変化や「つぶやき・ひやり・ハット」についても記録に残して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて病院受診や個別外出を行っている。また、ご家族が宿泊出来る様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来て頂き、マジックや腹話術を披露して頂いている。利用者様には好評である。また、地区と合同でグループホーム独自で防災訓練を実施させて頂くように計画を立てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様それぞれに、主治医がいる為、心身の異常があった際は、電話にて相談させて頂いている。	利用者夫々が主治医を持っており、定期的に家族の協力により受診している。投薬等主治医からの指示事項は必ず聴取している。異常時には家族の了解を得て直接主治医の指導も受けている。緊急の場合は、併設施設老健の協力を得て職員が直接対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に体調不良の方を見て頂いたり、相談にのって頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連絡を取ったり、主治医や協力病院に相談をしたりして対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様に異常が生じた場合には、ご家族や主治医に相談し、カンファレンスを開いて今後の方針を決めている。	利用者に異常が見られようになった時は、主治医・相談員などとカンファレンスを行い、家族や利用者の考方も受入れ、次のステップへの対応を検討している。施設替え、入院、終末期状態には家族の協理理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について定期的に話し合いを行っている。また、併設施設で行われている「救命講習」に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度、地域の方に協力して頂いて、防災訓練を計画している。また、マニュアルの確認等を定期的に職員間で実施している。地域との緊急連絡網も作成している。	消防署、地域住民、併設施設の協力を得て防災訓練を実施している。消防署職員による消化訓練、救命講習等も実施している。2ヶ月に一度はマニュアルにより安全確認の勉強会をしている。今、地域との連絡網を作成し安全な防災対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者様のつぶやき」「せりふ集」を活用し、常々対応を振り返っている。また、定期的に「声掛け」についての勉強会を行っている。	利用者の「つぶやき」記録帳や「せりふ集」を活用し、年輩者の自尊心を傷付けないよう、接遇研修や声掛けについての勉強会を行っている。また利用者のプライバシーは必ず守る支援に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「利用者様のバックグラウンド」や「つぶやき」の中から情報収集を行い、ご本人の「やりたいこと」を見極め、利用者様が納得した生活を送って頂ける様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の都合に合わせた業務になっている。また、職員の勤務も、利用者様の行事に合わせて作成している。臨機応変に対応できる様になっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、その日の希望に添って着て頂けるようにしている。また、美容院の行きつけがある方に関しては、ご家族に協力し頂いてお連れしていただいている。行きつけが無い場合に関しては、こちらで理美容院を決定させて頂きご本人の希望に合えば、そちらへお連れする場合がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に献立を考えたり、お買い物へ一緒に行き、食材の調達をしている。また、準備、後片付けにも協力して頂いている。	利用者と共に献立を考え、買出しにも同伴され、食材の選択に意見を述べてくれる。調理や配膳を手伝われる利用者もおり、下膳は自分でされる方が多い。食事も個人のペースにあわせゆっくり食べておられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の咀嚼、嚥下の状態に合わせて食事の対応を行っている。栄養バランスに関しては、併設施設の栄養士に相談にのって頂いたりしている。嗜好品に関しては、主治医の方に相談したうえで、好みのものを楽しんで頂く様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の中に、歯科衛生士の資格を持っている物がある為、アドバイスを受けながら、利用者様一人一人に合わせた口腔ケアが行えるように実施している。毎食後、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを個別に把握している。また、トイレ誘導が必要な方には誘導を行っている。	利用者個々の排泄パターンを把握しており、必要な利用者には声掛け等によりトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便のチェックを行っている。水分補給の確保や食物繊維の物を摂取したり、体を動かすなどして個別に対応している。それでも解消されない場合は、主治医に相談する等して対応している。また、現在、排便が困難で便秘の方はいらっしゃらない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望される利用者様には、必ず入浴して頂く様に支援している。また、安心して入浴して頂く為に、毎日、バイタルチェックを行っている。	温泉を利用しており、午後は浴室を開放している。入浴希望者は入浴したい時間帯を申し出され支援員の介助を受け入浴している。安全に入浴できるため、バイタルチェックは欠かせない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩へお誘いしたり、ラジオ体操や、その他、軽い体操をして頂いて体を動かして頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテの中に挟んでおり、職員全員で把握している。また、内服薬の変更や状態の変化があれば、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「つぶやき」「プロフィール表」を用いて個別のレクリエーションを行っている。また、昔されていた事や趣味を活かして、役割を持って生活して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関の鍵は常に開放している。行きたいところがあれば、職員が付き添い散歩等行う様にしている。	外食やリクリエーションに行きたい利用者があれば、職員が付き添い対応している。職員が対応できない時は家族やボランティアに協力を求めている。ぶどう狩りに行って来た写真が壁に貼ってあり、指差し笑顔で紹介してくれた。近所に神社があり、毎日の散歩は欠かせない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の利用者様は、ご家族に協力のご理解を得て、数百円程度をご自分で管理している。そのお金でジュースやお菓子を購入されている。また、「お小遣い帳」を利用者様に作って頂き、職員が通帳と印鑑を管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話をかけたい時にかけて頂くようにしている。手紙を書きたい希望があれば、便箋と封筒を用意して書いて頂く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節のお花を飾ったり、季節に合わせた絵画を飾ったりしている。また、不快な音がないように、生活から出される音に配慮を行っている。	季節に因んだ装飾品や花が置かれている。壁には行事の写真や手芸品が貼られている。大きなカレンダーが印象的でした。採光もよく利用者が皆でぬりえをして楽しんでいる、見ると隈なく綺麗に塗られていました。眼鏡なしで新聞を読んでいる方もおります。調査中に綺麗な花のプレゼントが家族から届きました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂内に、ソファを設置している。そこに、雑誌や新聞、皆さんの写真を自由に閲覧出来る様に設置している。そのスペースで気の合う仲間とお話出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には、ご自宅でご本人が使用していた家具を持って来て頂いたり、ご本人がお気に入りの装飾品を飾って頂いたりしている。	利用者が自宅で使い慣れたものを持ち込み、自宅並みの生活空間を作り出している。姫鏡台を持ってきた方や孫の写真を壁一杯に貼り見守る方、また親の位牌を持ち込み毎日合掌している方などと夫々が思い思いに生活空間を創出しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ自立した生活が出来る様に、利用者様の使い慣れたもの、親しみのある物をご家族にお持ちして頂いている。居室には利用者様それぞれの、表札を作成している。		